

コラム1

「しつけ」と虐待

洋服などミシンかけをする前に縫い目がずれないように、糸でおおまかに縫っておくことを「しつけ縫い」と言います。「しつけ」をこの「しつけ縫い」に例えられる方もいます。

おおまかでよいのです。

虐待事案が生じた際、虐待を加えたとされる者は「『しつけ』のつもりだった」と申し開くことがしばしばあります。

「『しつけ』と虐待は紙一重のもの」だとか「ここまでは『しつけ』の範囲でここからが虐待」といった解釈に陥りがちです。

(本ワークシートの設問もあえてそのように誘導するよう問いかけています。)

しかし、「しつけ」と虐待は別次元のものと考えべきものです。

たとえ、子どものことを思っている行為であったとしても、児童虐待防止法に定められる虐待の4類型（身体的虐待、性的虐待、心理的虐待、ネグレクト）に象徴されるような子どもに過度の苦痛や不安を与える行為は虐待であるとの認識を持つことが大切です。

もし「虐待」という言葉が強すぎる、「虐待」とは思えないとしても、せめて「虐待の萌芽(ほうが)」という認識を持つことによってより深刻な事態に発展する可能性は少なくなると思います。また、「『しつけ』の範囲を超えていたと思った経験はない」という人も「しつけ」という行為を自身の基準だけで判断するのではなく、子どもにとっての苦痛や不安といった基準で振り返ることも時として大切になってきます。



皇學館大学教育学部 准教授 市田敏之

コラム2

叱り方がわからない？

叱り方って難しいですね。「叱る」とことと「怒る」ことは同じでしょうか。

言葉の意味はともかく私はやはり感情のまま「怒鳴る」とことと「叱る」とことは違うと考えます。

私たちの『子育て何でも電話相談室』にも「叱り方がわからない」という相談が寄せられます。親は子どもが悪いことをすると叱ります。もし子どもが、なぜ叱られているのかわからなかったら、どうでしょうか。

長年、子育て相談を受けてきた立場から、私は叱り方にはポイントがあると考えています。1つ目は『その場』で叱ることです。特に年齢が小さい子には、いつ（時）の概念が備わっていないといわれていますので、過去（例えば昨日）にしたことを「だめでしょ！」と叱っても、子どもは何のことかわからないことがあります。そうならないために、叱る時は、その場で、近寄って目を見て「叱る」とよいでしょう。

2つ目は『言葉は簡潔に』です。

簡潔な言葉で叱らないと、子どもは何がいけなかったのかわからないし、そして叱られる時間さえ早く過ぎればいいな、と思うようになります。

一方で「ほめる」ことも大切です。ほめられると、大人でも嬉しく感じるものです。

親も完璧な人間ではありませんから、感情のまま怒りたくなる時もありますが、時には自分の時間を持つようにして、心も体も休ませて自分自身をケアしましょう。



NPO法人MCサポートセンターみっくみえ代表 助産師 松岡典子
(桜花学園大学保育学部 非常勤講師)